平成 30 年 9 月 28 日　№06

学校教育目標：心豊かで，主体的に行動できる生徒の育成

け　や　き

甲府市立南中学校
文責　校長　加藤新吾

平成３０年度　全国学力・学習状況調査の結果について

はじめに

本年度の全国学力・学習状況調査は，全国の中学校３年生を対象に４月１７日（火）に国語・数学・理科で実施されました。この調査は，「教科に関する調査」と「生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査」の２種類からなっており，「教科に関する調査」のうち，国語と数学は「知識」に関する問題（A問題）と「活用」に関する問題（B問題）に分かれています。

この調査結果を基に，本校生徒の学力や学習状況を分析・把握し，各教科における成果や課題，生活状況の実態等を明らかにすることで，今後の指導の改善に役立てることが目的です。

本校では，各教科担当を中心に分析を行ってきましたが，このたび分析結果がまとまりましたので，その概要をお知らせします。今後，３年生には個人票を返却し，自分のつまずきを知り，その改善に取り組むように指導します。また，学校としても，全学年で授業や指導のあり方を見直して，具体的な取り組みを行っていきます。

学力調査の概要

平均正答率を比べてみると，国語Aは，全国及び県をやや下回っている。国語Bと数学Aは全国及び県と同等，数学Bと理科は全国及び県より高いとの結果でした。集団としての正答率も大切ですが，学力学習状況調査では生徒一人一人の課題を把握し，これからの指導に生かしていくことが，最も重要となります。

県・全国の平均正答率					
	国A	国B	数A	数B	理
県	76	62	66	48	67
全国	76．1	61．2	66．1	46．9	66．1

各教科の成果と課題（〇：成果　△：課題）

国語Ａ

〇「読むこと」の領域に関しては全国に比べて平均正答率をやや上回っている。
〇説明的文章を読み，文章に書かれている内容を捉える力は身に付いている。
〇文章の中の接続詞の働きについては定着している。
〇語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使う力は身に付いている。
△無回答率は，ほとんどの設問において，わずかではあるが全国の無回答率より高い。
△漢字の読み書きとも，基本的な知識が身に付いていない生徒が多い。
△四字熟語や慣用句など語句の理解や使用などの基本が定着していない。
△書写で学習したことの知識が身に付いていない。
△書いた文章を読み返し，伝えたい内容が十分に表されているかを検討する力が定着していない。

国語Ｂ

〇無回答率は，全体的に全国の無回答率よりも下回っている。
〇文学的な文章を読みあらすじを理解し相手に伝わるように書く力は半数以上の生徒に定着している。
△全体と部分の関係に注意して，相手の反応を踏まえながら話すことは苦手である。
△目的に応じて文章を読み，内容を整理して書く力については多くの生徒の身に付いていない。

数学Ａ

〇数直線に関わる設問の正答率が高い。
〇数量の関係を文字式に表す設問の正答率が高い。
〇多角形の内角の性質に関する設問の正答率が高い。
△資料の活用に関わる設問の平均正答率がやや低い。
△無回答率が高い設問は全国平均よりやや高い。
△図形の作図や投影図に関する設問の正答率が低い。
△資料の活用について，試行によっての相対度数の変化に関する設問の正答率が低い。

数学Ｂ

〇無回答率が高い設問に対しては本校の生徒も高い傾向にあるが，ほぼ全国平均と同程度である。
〇不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉える設問の正答率が高い。
〇発展的に考え，条件を変えた場合について証明の一部を書き直す設問の正答率が高い。
△計算の順番を入れ替えたときの計算結果が何の倍数になるかを問う設問の正答率が低い。
△グラフから解答を求め，その方法を説明することを問う設問の正答率が低い。

理科

〇無回答率では，全国との明らかな差はみられない。
〇化学的分野の問題が得意な生徒が多い。。
〇生物の特徴と分類を得意とする生徒が多い。
〇地震のゆれの伝わり方や光・音の伝わり方の知識を活用できる生徒が多い。
〇水溶液の濃度に関する設問の回答率は高い。
〇風向を表した図から各地点における風向を推測することができる生徒が多い。
△神経系の働きについて基礎的な知識の定着についてはやや低い。
△記述式の問題の正答率がやや低い傾向がある。

裏面に続く→

各教科における主な改善点

国語

・漢字学習においては，引き続き授業の中で新出漢字を学習する時間を確保していく。また，小学校学習漢字を復習する機会を設ける。
・語句の定着については，国語辞典で難語句の意味を確認することを取り入れ，語彙を増やしていく。
・書写で学習したことを生かして文字を書くように提出物の文字なども学習したことを意識させる。
・自分の考えを書く機会を授業の中にできるだけ多く設け，考えを整理して書く力を育てる。
・授業中の発表も，相手意識を持つよう指導していく。

数学

・図形の移動や性質をしっかりと理解させ，関連付けて作図をさせていく。
・資料やグラフから情報を読み取り，自分の考えを記述・説明する機会を増やし，繰り返し指導する。
・日常の事象や身の回りにあるものを題材とする機会を増やし，その中にある数量関係を数学的に表現・説明できるよう繰り返し指導する。

理科

・基礎的基本的な語句や用語の定着を図っていくために，家庭学習の充実を図っていく。
・計算問題に対する苦手意識を払拭するために，単元ごと簡単な計算問題に取り組む場面を設ける。
・観察や実験結果を基に，考察を自分の言葉でまとめ，発表する中で「自分の考えを再考する場」を設ける。
・学習した内容が実生活の中で利用されている例を示し，興味・関心を高める。

学習状況調査（質問紙調査）の概要

○：肯定的な回答が，全国平均を上回っている設問
△：肯定的な回答が，全国平均を下回っている設問

学校や家庭での生活について

○「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」
○「将来の夢や目標を持っていますか」
○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」
○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」
○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」
○「毎日，同じ時刻に起きていますか」
○「朝食を毎日食べていますか」
（全く食べていない生徒は一人もいなかった。）
△「毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか」
△「新聞を読んでいますか」
△「放課後に何をして過ごすことが多いですか」の設問に対して「家でテレビやビデオ・DVD を見たり，ゲームをしたり，インターネットをしている」生徒の割合
△「週末に何をして過ごすことが多いですか」の設問について「家で勉強や読書をしている」生徒の割合

授業について

○「数学の授業で問題を解くとき，もっと簡単な方法がないか考えますか」
○「観察や実験を行うことは好きですか」
○「１，２年生のときに受けた授業では，課題解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと思いますか」
○「１，２年生のときに受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えが伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」
○「生徒間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか」
△「数学の勉強は好きですか」
△「数学の勉強は大切だと思いますか」
△「数学の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役立つと思いますか」
△「理科の勉強は好きですか」
△「理科の勉強は大切だと思いますか」
△「理科の授業の内容はよく分かりますか」

家庭学習について

○「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において，教科書を使いながら学習していますか」
△「家で，学校の授業の予習・復習をしていますか」
△「学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強しますか」の設問で，全くしないという生徒の割合

地域との関わりについて

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」
△「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」

質問紙調査からの改善策

☆将来の夢や目標を持って，人の役に立ちたいという前向きな気持ちの生徒が多い。また，いじめはどんな理由があってもいけないことであるという善悪の判断ができている生徒の割も多い。引き続き，家庭と学校の連携を持ちながら，学校の中でもキャリア教育や道徳教育に力を注いでいく。
☆各教科の授業や道徳，総合的な学習の時間において，これまで積み上げてきた話し合いをする活動が定着し，自分の考えをわかりやすく人に伝えようとする生徒の割合が増加している。各教科でそのような場をさらに設定し，持続していく。
☆携帯やスマホの依存度が高く，就寝時間が遅くなる傾向にある。また，放課後や休日の過ごし方で，ゲームやインターネットをしている時間が長く，家庭学習や読書の時間が削られている様子が見られる。そこで，家庭学習の重要性を生徒に理解させ，家庭とも連携をして家庭学習の習慣を図っていく。
☆校内研究会などを通し，教師の授業力を高める。特に，生徒が興味をもつ，わかりやすい授業の工夫に努める。また，授業の導入で生徒に学習の見通しを持たせ，まとめで振り返りをさせる主体的な学びを確立するために，「甲府スタイル」も授業づくりの視点に基づく授業改善を一段と進めていく。